

第6学年 総合的な学習指導案

指導者 梅崎 千晶 末久 友貴

1. 単元名（題材） 室内小スマホ・携帯電話の使い方 室内〇か条を考えようⅡ

2. ねらい

- ・ SNS について学習し、自分たちでルールを作り、全校生に呼びかけることで、学校全体でネットのトラブルから身を守ろうとする心を育てる。
- ・ スマホや携帯電話の危険性を知ること、自分や友達の人権を大切にしようとする態度を育てる。

3. 人権教育の内容

思いやりの心の育成 3－（2）－ア 兵庫県人権教育の視点

4. 指導にあたって

子供たちは、これまでに、インターネット安全教室や情報モラル学習の中で、正しい SNS の利用の仕方やその危険性について学習を重ねてきた。5年生では、企業の協力を得て情報モラル効果測定を行い、SNS にふれる上での個々の特性や課題について理解を深めた。はじめは自分に関係ないと思いこんでいた子ども、学習を通して、「これからは気をつけていきたい」と感想を持つようになる等、多くの子供の情報モラルが向上した。しかし、日常生活の中での SNS をめぐるトラブルは減少しておらず、依然として、LINE やメールを使用する中での友達同士のトラブルが見られる。高学年の携帯電話の所持率はたいへん高く、今後も予断を許さない状況が続くと思われる。繰り返し SNS についての学習を行うことで、子供たちに、正しい知識をもってもらいたい。そして、自分で SNS の利用のしかたを考えられる子になってほしい。

この単元は、昨年度の6年生が本校ではじめて取り組んだ学習である。SNS のよさと危険性を学んだ後に、自分たちで利用のしかたや課題を考え、全校生に発信する学習である。ただ知識を詰め込むだけでなく、自分たちで話し合いを行うことにより、主体的に SNS の問題に取り組む姿勢が育まれることを期待したい。さらに、「室内スマホ〇か条」を全校生に発信することで、全校的な取組にでき、「自分たちで決めたのだから、きちんと守らなくてはいけない」という責任や自覚が生まれる。昨年度十分に浸透しきれなかった部分を課題として、さらに発信の方法や子供たちの主体性に重点を置いて取り組みたい。

まずは、これまでの学習や過去のアンケートなどからの振り返りを行い、自分たちの SNS の使い方に問題はないのかじっくり考えさせたい。「インターネットのいいところ・悪いところ」について意見交換させる中で、のちの「〇か条」につながる意見が多く出てくるであろう。しっかりと課題意識をもってもらい活発な意見交換にさせるため、各班に1人ずつ学生がアドバイザーとなって配置する。学生は、最後の発信のところまで子供たちのサポートにあたるため、子供たちが考えを持ちやすくなり、アイデアを浮かべやすくなるだろう。自分たちで作成した「室内スマホ〇か条」を全校生に発信し、さらにその発信の成果や課題を、子供たちで検証させたい。学習の中に自分たちですすめる時間を多くとることで、SNS の問題を、より主体的に自分の問題としてとらえることができるだろう。

この学習を通して、正しい SNS の利用のしかたを考えられる子になってほしい。それはつまり、自分や他者を大切にできる心が育つことであり、相手の気持ちに寄り添える子を多く育てたい。

5. 単元計画

	内 容
1	スマホ・携帯電話のいいところ、悪いところについて考えよう。
2	室内スマホ〇か条を作ろう。
3	他の学年に伝える方法を考えよう
4	他の学年に伝えに行き、これからのスマホ・携帯電話との接し方を考えよう。

6. 本時の流れ

ねらい

- ・スマホ、携帯電話の良い点、悪い点を考えることを通して、SNSとの接し方について考えることができる。

学習活動	指導上の留意点
1. 今までの自分の経験を振り返り、本時の学習を確認する。	<p>○今までの情報モラル学習のまとめとして、皆で話し合い活動をすることを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講師5名の紹介 ・進め方の説明。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> スマホ・携帯電話のいいところ、悪いところについて考えよう。 </div>	
<p>2. 5グループに分かれ、話し合いを進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙にスマホの良い点悪い点を考え、貼る。 <p>メリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達といつでも簡単に連絡がとれる。 ・知らなかったことを調べられる。 ・楽しいゲームがたくさんある <p>デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トラブルの原因となる。(友達・他人) ・世界の誰とでもつながってしまう。 ・高額なお金がかかる。 	<p>○各グループに講師がファシリテーターとして1名入り、話し合いを支援する。</p> <p>○1人1人に考えをしっかりとってもらうために、はじめに付箋を用意し、そこに1項目ずつ書き出させる。</p> <p>○付箋を班で持ち寄り、付箋のグループ分けをしながら、班での話し合いを行わせる。</p> <p>○意見の出にくい児童には、今までの学習を思い出すように促す。</p> <p>○実際に使った時に感じていることも班の中で出し合えるようにする。</p>
<p>3. 各グループ話した内容について、考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各班の模造紙を黒板に貼り、比較検討する。 	<p>○自分たちが考えたことと、他のグループが考えたことを比べて、重なる点や違う点、全体の傾向等について自分の考えを出す。</p>
<p>4. 今後のスマホや携帯電話との接し方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出た意見をどのようにしてまとめ、全校生に発信していくかを考える。 	<p>○本時の学習から、SNSと接していく時に気をつけなければならないことについて、まとめる。</p> <p>○「やらされる活動」ではなく、自分たちはどうしていきたいのかという視点から考えていけるようにする。</p>